



2 スマホの使い方、学生がサポートします

コロナ禍でオンライン化が急速に進む一方、デジタル機器になじみがなく戸惑いを感じている高齢者も少なくないのではないでしょうか。そんななか、弥生台にあるNPO法人「だんだんの樹」が運営する「コミュニティだんだん」では、専門学校の学生が高齢者にスマートフォンの使い方を教える「孫セラピー」を月1～2回、開催しています。

この講座は、「総合学園ヒューマンアカデミー横浜校」の学生が、コロナ禍でも自分たちに何かできることはないかと考えたのがきっかけで昨年8月から始まりました。参加者は学生にLINEのビデオ通話のやり方などを1対1で教わります。

回数を重ねるごとに学生たちの教え方が上達し、会話も和やかに交わされています。参加者からは、自分の孫のような年代の学生に接することで元気をもらえる上、知りたいこと・わからないところを教えてもらえると好評です。



画面を操作しながらのレクチャー



4 私たちのお店にぜひいらしてください!

共働舎・ベーカリー&カフェはなむらでは、鉢花などの園芸品、パンやお菓子、陶器の販売などを行っています。また、定期的にお菓子やパン作りの体験・陶芸教室が開かれています。

人の接点が持ちづらくなってしまう状況だからこそ、地域の方々とのかかわりを大切にして活動を続けていけるよう取り組んでいます。

今年度は、令和2年春に出された緊急事態宣言を受け、お店をお休みする期間がありました。しかし、現在は感染症対策をしたうえで、再開することができています。また、体験教室は定員を縮小しましたが、内容を幅広い世代に楽しんでいただけるように工夫し、大盛況となりました。

ここでは、障がいのある人たちもスタッフとして働いています。あるスタッフは、「私は接客が好きなので、カフェスペースでの仕事を頑張っています。子どもが来店してくれると嬉しいです。」と話していました。



スタッフ手作りのかわいい動物の陶器



陶芸やパン作りが体験できます

3 買い物や食を通じてみんなで地域を盛り上げます!

下和泉・富士見ヶ丘地区では、週に1度、コース上に設定された場所を巡回する移動スーパー「ほかぼかマート」が運行しています。

買い物の不便さの解消からスタートした取り組みですが、屋外の慣れ親しんだ場所で密にならずに買い物ができる安心感から利用する方も増加しています。販売を担当するのは、下和泉地域ケアプラザの呼びかけを受けた㈱アリア。隣接していた同系列のグループホームなでしこが駐車場を会場として提供して下さり、現在までの広がりにつながるきっかけとなりました。

また、同地区での食事会（下和泉八日会）はコロナ禍でお弁当の配布に方法を変更しました。その際も、㈱アリアに食事会でのレシピを提供、再現したお弁当を作っていました。参加者が外に出かけ、短時間でも顔を合わせることができる場として継続しています。

様々な工夫を取り入れ、つながりや交流を広げる取り組みが行われています。



日用雑貨から食品まで豊富な商品が並びます



お弁当配布の様子

今回紹介した中には「泉サポートプロジェクト」の取り組みとして実践されているものもあります。

泉サポートプロジェクトとは、区内の社会福祉法人や施設・企業が地域と互いに支え合える関係づくりを行う取り組みです。施設職員による介護講座、会場貸出、車両送迎など活動は広がっています。

このステッカーを見かけたらぜひ注目してください。



今号では企業や施設と連携した地域の中の取り組みについて紹介しました。新型コロナウイルス感染症の影響により地域活動をはじめとした様々な場面で現在も大きな影響が続いている。

それぞれの取り組みに応じて、これまで育まれてきた地域のつながりや支え合いの活動を絶やすず、今に即した方法で実施し続けられるよう、前号で紹介した内容やオンラインの活用など様々な工夫が行われています。

正しい知識と対策をとりながら続けている多くの活動に、ぜひ応援、ご参加をよろしくお願ひいたします！

